審査員長賞

熱闘造園技能士試験

金原　淳一　兵庫県神戸市　五十一歳

今年も始まった。八月の熱闘造園技能士三級試験に向けた演習。
私の住む地域では、造園技能士試験は八月に開催される。私は学生にこの試験の説明をするとき受検を促すのをどうしても躊躇してしまう。とにかく暑いのだ。試験本番も暑いが、試験日前の数週間はどんどん気温が上がっていく。中には体力がついていかないものいる。
それでも造園家を目指す者にはこの試験を勧めている。将来、庭園や公園の施工をする仕事につかなくとも、庭や街の緑を見る目は養われるからだ。私が教えている造園学校では施工だけでなく設計・デザインのコンサルタントや官庁を志望する者も多くいる。鑑賞しただけはわからない、樹木を植える、生垣をつくる、石を置く難しさを理解することができるからだ。施工を知らなければ、設計やデザインの勉強だけででは、奇を衒う設計になるだけだ。
美しい庭や快適なみどりをつくる第一歩に造園技能士三級の勉強は適している。日本人がつくり維持してきた庭園技術を未来に繋げる試験だと思う。
しかし最近の八月はとにかく暑い。この暑さを止めるには街中にみどりを増やし街を冷やしていくしかない。それが造園家、造園業の仕事なのだから。受検生にはこの暑さを忘れないでほしいと思う。